

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東筑紫学園認定こども園園舎	階数	地上5階地下1階
建設地	北九州市小倉北区下道津5丁目104	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	270 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年3月26日
敷地面積	1,883 m ²	作成者	松本拓也
建築面積	694 m ²	確認日	2016年3月27日
延床面積	3,093 m ²	確認者	定森淳一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 98%
 ③上記+②以外の 98%
 ④上記+ 98%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項		
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・室内環境、サービス性能に配慮している。 ・緑豊かで親しみやすいイメージに配慮している。 ・高性能断熱材の採用等、建物の熱負荷抑制に配慮している。 ・資源、マテリアルの確保に努めている。 	その他 0
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・屋光率を確保している。 ・内装材には、F☆☆☆☆を採用し空気質環境に配慮している。 ・自然換気性能の確保に努めている。 	Q3 室外環境(敷地内) <ul style="list-style-type: none"> ・建物周囲に植栽をすることにより、緑豊かで親しみやすいイメージに配慮している。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・高性能断熱材の採用等、建物の熱負荷抑制に配慮している。 	LR3 敷地外環境
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり条例の基準を満たす。 ・耐用年数の長い部品、部材を採用している。 ・階高、壁長さ比率を確保し、空間のゆとりに配慮している。 	
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・自動水栓に加え、節水型便器の採用等、建物の節水に配慮している。 ・躯体材料以外におけるリサイクル材を採用している。 ・GL工法、OA工の採用等、解体時におけるリサイクルを促進する取組みを行っている。 ・防水工事のプライマー等、化学物質の使用削減に努めている。 	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される